

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

■ 県立図書館120年のあゆみ P2
■ 秋の読書週間 P4
■ 緑陰コンサート P5
■ 展示・講座 P6
■ 声に出して言葉を楽しもう会/ 覗いてみよう！県立図書館 P7
■ お知らせ P8

※緑陰通信は県立図書館のホームページ (<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>)
からもご覧いただけます。



創立120周年を
迎えました

創立120周年を迎えた宮崎県立図書館。

これからも県内市町村の図書館(室)といっしょに、宮崎の歴史、文化を後世に伝えつつ、県民の皆様の一生の学びを支える拠点として、人の暮らしを豊かにし、地域の課題解決に役立つ図書館を目指して参ります。

知の共有・創造を支える



初代館



2代目館



臨海文庫



瑛九が壁画を描いた
子供読書室



移動図書館車「やまびこ」
(車横は中村地平)



120年のあゆみ

宮崎県立図書館は2022(令和4)年5月28日に創立120周年を迎えました。今号では宮崎県立図書館の創立の経緯からこれまでの歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

1873年
【明治6年】

前身

1873年 【明治6年】

新聞を閲覧するための施設が上野町、中村町、城ヶ崎の三箇所にて設けられた。

1897年 【明治30年】

遠藤正の発案で、寄付により日州教育会¹が附属図書館を設立。

誕生

1902年 【明治35年】

日州教育会の附属図書館が県に移管され、同年5月28日に宮崎県立図書館として開館。移管を機に、これまで宮崎郡大宮村下北方(現在の宮崎公立大学付近)にあった建物を宮崎県勸業物品陳列場敷地内(現在の防災庁舎付近)に移転。全国でも京都、秋田に続く3番目に設立された図書館となった。²

1902年
【明治35年】

2代目館オープン

1916年 【大正5年】

鉄道事業や西都原古墳群の発掘調査で知られる有吉忠一知事の企画により、県立図書館を改築。新しい図書館は児童室も備えたルネッサンス風の洋風建築であった。

三館体制

1917・1918年 【大正6・7年】

県は県立都城図書館、県立延岡図書館を開館し、各館で全県下の巡回を分担。

海辺へアウトリーチ

1921年 【大正10年】

海水浴のシーズンに、青島でテントを張り、「納涼図書館」を開設。宮崎軽便鉄道の後援を受け、1922(大正11)年からは「納涼文庫」として設置され、戦争による中断をはさみ「臨海文庫」とさらに名を変え1965(昭和40)年頃まで続いた。

単館へ

1947年 【昭和22年】

県立延岡図書館は移管され、延岡市立図書館になった。

1948年 【昭和23年】

県立都城図書館は移管され、都城市立図書館に。

花と絵の図書館

1947年 【昭和22年】

初めての公選により安中忠雄が知事就任後、県は宮崎生まれの作家中村地平を県立図書館長に招く。地平は1947(昭和22)年から約10年間、館長として予算と人材の獲得に奔走する一方で、幅広い人脈を用い「宮崎図書館後援会」や「宮崎談話会」の結成、開館50周年を記念した2代目図書館の増改築、移動図書館車「やまびこ」の開設等、多彩な取組を精力的に行った。

また、地平は「灰色の部屋の中に陽の光を、かわいた空気のなかにあたたかい匂いを・・・。」と、児島虎次郎、瑛九、塩月桃甫等郷土出身の画家の作品を館内に展示し、館の周辺には植木や草花の苗を館員とともに植えるなど、「花と絵の図書館」を目指した。

*1 日州教育会
教育関係者の団体。1886(明治19)年設立。初代会長は当時師範学校校長でもあった遠藤正。遠藤は師範学校の開校など宮崎県の教育界に多大な貢献をしました。

*2 『近代日本図書館の歩み 地方編』(日本図書館協会/編集・発行 1992年)によれば、当時の新聞『宮崎新報』では、図書館を「一、有益な職業案内所たり、二、有益な自習学校たり、三、公衆一般の一大娯楽場なり、四、地方文明の一大発生機関なり」と解説していました。年間利用者は開館当時の239名から、明治末には9,874名に増加していました。

★利用者の方からの思い出

今年度の秋の読書週間に行った展示で、利用者の方から県立図書館との思い出を募集しました。写真とともに、当時の様子をお楽しみください。



全焼した2代目館



喫茶室翠

★「図書館火災の件、しっかり覚えています。風の強い日のことでした。残念なことでした。」



新聞コーナー（3代目館）

★「よく新聞を読みに行きました。立って読めて便利でした。」

★「学生だったので一日中入り浸って勉強しておりました。併設の喫茶店、とてもおしかったです。」

さらなるネットワーク化 「どこでも」「ささえる」「つながる」 県立図書館へ

1988(昭和63)年当時、13館あった宮崎県内の公立図書館は、2022(令和4)年現在34館となっています。少子高齢化、人口減少、社会情勢の急速な変化に対応したサービスを各市町村の図書館が展開していくため、市町村の図書館を支援する機能を一層高める必要があります。

1988年 【昭和63年】

緑陰通信刊行

1950年【昭和25年】

この中村館長時代、図書館法が成立したばかりの頃、現在の館報「緑陰通信」が刊行。ホームページやSNSも無い時代、12頁(後に6~8頁程度)にわたる館報には、館長以下、記名のレポートや、全国的な図書館界の動向、館長と親交のあった火野葦平の寄稿、地元書店による新刊案内、地元企業の図書室や県立高校の学校図書館・公民館図書室の紹介、図書選定委員との座談会等の内容を掲載。

2代目館全焼

1959年【昭和34年】 6

4月最初の日曜日の午後、近隣の町村会館から出火した火の類焼により、1951年に増改築された2代目図書館が全焼。

3代目館

1961年【昭和36年】 7 8

鉄筋コンクリート三階建ての3代目図書館が建設された。

新館建設へ

1979年【昭和54年】

9月、県は「宮崎県立図書館基本構想検討委員会」を設置。

1981年【昭和56年】

1月、委員会により発表された「宮崎県立図書館基本構想検討委員会報告」では、県立図書館と市町村立図書館との役割分担、県立図書館の機能と役割、早急な県立図書館整備の必要性が示された。

4代目館オープン

1988年【昭和63年】

4代目の図書館(現在の館)は、①県内図書館活動の協力センター、②調査研究センター、③郷土総合資料センター、④視聴覚資料センターの4つの機能を備えるものとして、九州では初めてコンピュータ・システム(略称MILAI)を導入し、置県100年を記念する総合文化公園の最初の文化施設として、5月に開館。

コンピュータ・Web活用へ

1995年【平成7年】

本の貸出をネットワークから申し込める宮崎県立図書館コンピュータネットワークシステム(通称マイライン)の運用を開始。

2000年【平成12年】

ホームページを開設。いつでも蔵書検索が可能に。

2003年【平成15年】

県内の公立図書館4館の蔵書を含め一括検索できる横断検索システムを導入。

2009年【平成21年】

Web上から貴重資料を閲覧できるデジタルアーカイブを公開。

2016年【平成28年】

毎日発送の新マイラインサービス(遠隔地にお住まいの方のため本を近くの図書館に届ける)開始。

2022年 【令和4年】 現在

県立図書館と市町村立図書館、図書館未設置地域の図書室とは、コンピュータシステムでつながり、本を運ぶというだけではなく、公立図書館(室)職員対象の研修、市町村立図書館への定期訪問、運営等に関するアドバイス、有事の際の情報共有など、お互いの「顔」の見える関係づくりを目指しています。



現在の図書館への来館者からのメッセージ

「今を生きるためには何が必要なのか、いつも教えてくれる場所でもあり、答えてくれるところでもあります。悩んだら、県立図書館に行って答えを持って帰っています。」

「休日親に連れて来てもらって「こどもしつ」をずっとうろろうしていた。変な絵本(ふるふき大根で殿さまのきつね狩りを阻止する)とか、ドリトル先生シリーズとか、ロープワーク図鑑とか、次借りよう!と思って去るのですが、結局次の週末には忘れて別の本を借りてしまう。「こどもしつ」にたくさんの心残りを作って大人になってしまった。」

祝！創立120周年 秋の読書週間

秋の読書週間にあわせ、創立120周年記念を兼ねた「やっぱり県立図書館」という企画展を1Fギャラリーにて、10月18日(火)から11月6日(日)まで開催。期間中には、講演会を行いました。



企画展「やっぱり県立図書館」【10/18~11/6実施】

創立以来時代に対応してきた当館の変遷や公共図書館の歴史と現在までをまとめたパネル、明治時代に発行された年報、昭和34年に火災にあった際の一部焼け焦げた書籍を展示しました。

また、県民の皆様から募集した県立図書館で出会った本のエピソード、第23代図書館長中村地平と郷土画家塩月桃甫の関わりを高校生が調べた内容を紹介しつつ、第3代図書館と現在の館の開館当初の写真をもとに皆さんに思い出を綴っていただいたほか、県民の皆様が「本」や「図書館」について詠んだ短歌から、入選作品を展示しました。

創立120周年記念「図書館・本を読む」短歌募集

宮崎県立図書館創立120周年を記念し、「図書館」・「本」をテーマにした短歌を募集し、677名の方のご応募をいただきました。

たくさんのご応募ありがとうございました。選歌は、歌人でもある伊藤一彦名誉館長が行いました。

この度の「図書館・本を読む」短歌に、多数の良い作品が寄せられた。本好き、図書館好きの人の作品は、私も本好きなので、大いに共感して読んだ。賞の選考には迷うほどだったが、最終的にすばらしい作品を選べたと思う。(名誉館長 伊藤一彦)



講評全文は
こちらから！

最優秀賞

図書館は大いなる街いま僕は
旧友探す旅をしている

宮崎市 久永草太

優秀賞

露光る紫陽花抜けてバス停へ
かばんの中で本飛び跳ねる

宮崎市 宮本 朝美

好きな本隣の君も読んでいて
世界と世界が重なる夕暮れ

宮崎県立宮崎西高等学校 川越 優羽

佳作

図書館を頭の中で作りたい
それほど私は本が好き

宮崎県立宮崎大宮高等学校 新山 恵未

コロナ禍に貸出し停止の絵本らが
所在なさげな小児科の棚

宮崎市 西村 三智

病室のベッドでポツンと読んだ本
トモダチになった漱石と僕

延岡学園尚学館高等部 山内 路加

図書館の とびら開けば 別世界
静かな空気 背すじがのびる

宮崎県立都城農業高等学校 丸山 莉奈

筆者達 長年かけて 導いた
答えを本で 学ぶ喜び

宮崎県立佐土原高等学校 小野 心響

学びたい知りたい多くの答えある
しかし本自身は問いかけるだけ

宮崎県立宮崎北高等学校 日高 蒼士

図書館を「大いなる街」と思いきって歌っているのがいい。「街」は人と出会うところであり、図書館は出会いの場所なのだ。作者は自分をよく知っている「旧友」を探すといい。「旧友」とは日本の古典かもしれないし、ヨーロッパの近代小説かもしれない。作者の「旧友探す旅」が心豊かであることを祈る。(名誉館長 伊藤一彦)

好きな本 ならべて作る マイ図書館
今日の音楽 梅雨の雨音

宮崎県立佐土原高等学校 大衛 里胡

いつもなら見ているだけの僕だけ
本の中では主役になれる

宮崎県立宮崎北高等学校 蛸原 斗真

午後三時棚から棚への小旅行
見知らぬ私と出会う図書館

宮崎市 坂尾 美香

弟に読み聞かせする小三の
語りやわらか絵本へ誘う

日南市 菊地 純子

色あせたさくらんぼの絵さようなら
遠いあの日の父の手と本

延岡学園尚学館高等部 花岡 杏吏

本を読む 読み終わった時 気付くはず
今までのとは 違う世界に

宮崎県立都城農業高等学校 馬越 優月

本読むと 広がる想像 また一歩
自分の為の 未来予想図

宮崎県立宮崎北高等学校 油田 みすず

一瞬で飲みこまれるこの世界観
次々めぐり読み進める手

宮崎県立宮崎北高等学校 安藤 愛

「日本の『村』と文学—大江健三郎、柳田国男、島崎藤村を繋いで考える」

本県出身者の尾崎真理子さん（早稲田大学教授）による大江健三郎に関する本はこれまで2作ありますが、10月、新たに『大江健三郎の「義」』を発表されました。その尾崎さんに刊行後初めて「日本の『村』と文学」と題した御講演を同月29日にいただきました。講演では、大江作品に「ギー」がつく登場人物が何度も出てくることについて、大江が恐らくは精神的よりどころとしてきた民俗学者柳田国男の「ギー」ではないかという推論にいたる経緯や、島崎藤村の「夜明け前」の明治維新という時代に翻弄され死に至る登場人物青山半蔵と、大江作品の昭和前半の時代精神に殉じて死んでゆく父親像の接点などを述べられ、参加者からは大江作品を再度読みたくなったという声を多くいただきました。尾崎さんは柳田、藤村、大江に「村」という共通項を見い出し著した今回の作品に、御自身が幼少期に訪れた椎葉村の記憶が作用したこと、御自身のルーツについて触れ、講演を結ばれました。



講演中の尾崎真理子氏

レポート

読み聞かせと音楽を楽しむ

第2回 緑陰コンサート

11月13日に第2回緑陰コンサートを実施しました。このコンサートは、県内で音楽活動をしている団体を招いて県立図書館屋外の緑陰のある広場で演奏をしていただき、来場者の方に素敵な時間をお届けするイベントです。

この日は朝から生憎の空模様。外は暗く、やや強い雨が降る時間も。屋外での実施を半ばあきらめていたその時、まさかの晴れ間が！それからは、最後まで青空の下でコンサートを行うことができました。

今回演奏してくださったのは、音楽愛好家の方々が集う宮崎市内のカフェで、定期的に演奏会を行っている「花のワルツ」様です。その「花のワルツ」に所属する「ル・クール」「オカリナGreen」「ラーゴム」の3団体に演奏をしていただきました。

まず登場していただいたのは「ル・クール」様。ギター、オカリナ、フルートを使って、「デイドリーム・ビリーバー」といった多くの方に馴染みのある曲や、子どもに人気のある「アンパンマンのマーチ」などを演奏していただきました。特に「コンドルは飛んでいく」は来場者のアンケートに「もう一度聞きたかった。」とのコメントがある程、素晴らしい演奏でした。

次に、6人がオカリナを使って演奏する「オカリナGreen」の皆様が登場。「浜辺の歌」や「花嫁」など懐かしい楽曲を披露されました。オカリナ6つの音色とハーモニーは思わず「きれい！」と言葉が出てしまうほど圧巻でした。

その後、県立図書館司書による大型絵本の読み聞かせも行いました。子ども達はステージ前に来て、じっと絵本を見て物語を聞いていました。大人の方々も楽しんでいただいたようで、特に手遊びの時はのりのりな様子でした。

最後に「ラーゴム」の皆様はギター、カホン、ベースなどを使って「カントリーロード」といったジブリの名曲や「大きなのっぽの古時計」などを演奏していただきました。きれいな歌声や演奏の音色はもちろのこと、特に「日々」ではオリジナル製作の紙芝居を用いて演奏する工夫までしていただきました。



フィナーレには「ル・クール」「オカリナGreen」「ラーゴム」が1つになって「切手のないおくりもの」を演奏。

気持ちのよい気候、緑陰と木漏れ日に囲まれながら、花のワルツの皆様が届けてくださる素晴らしい演奏のお陰で、コンサートは大成功に終わりました。「心地よい時間を過ごすことができた」など、来場した方々から満足の声をたくさんいただきました。



特別展「若山牧水～牧水と旅～」【展示期間：9/17～10/16】



若山牧水の命日にあたる9月17日(土)から10月16日(日)の期間で、特別展「若山牧水～牧水と旅～」を開催しました。

牧水の代表的な紀行文集『みなかみ紀行』と同名の「みなかみ紀行」(長野県から群馬県を経て栃木県日光までの旅程)の旅からちょうど100周年ということで「旅」をテーマに、牧水がなぜ頻繁に旅に出たのか、旅への思いなど関係資料をもとに見学者とともに考察する構成で展示を行いました。旅先で詠んだ歌の遺墨は、本館所蔵の小林邦雄コレクションなどから10点を展示し、その読みやすく丸っこい筆致が多くの見学者を魅了していました。

故・小林邦雄氏とその遺族から寄贈された牧水関係資料をもとに、今後も牧水の知られざる一面を県民の皆さんへ紹介する展示会を実施していきたいと思っています。

県立図書館では毎年、2階特別展示室にて年3回の展示会を行っています。

県立図書館 特別展示

そのうち、会期が終了した二つの展示について、ご報告いたします。

会期中多くの方々にご観覧いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、1月からは企画展「宮崎の漁業」(1/14～3/12)を開催しています。

特別展「中近世の日向国」【展示期間：11/1～12/4】

11月1日(火)から12月4日(日)まで、特別展「中近世の日向国」を開催しました。今回の展示会では、日向国中世・近世における宮崎平野部の支配者層の変遷や、江戸時代の延岡藩・高鍋藩・佐土原藩・飫肥藩の歴史及び幕末期の諸藩の動向についてパネルで紹介しました。また、本館が保管する、1587年の羽柴秀長と島津軍との戦いである第二次高城合戦の布陣図や、伊東氏の歴史を中心に綴った『日向記』、また、佐土原藩の歴史や領内図を記録した『佐土原藩嶋津家日記』や「佐土原藩領の図」を展示しました。



宮崎県文化講座

年3回、歴史、文化、伝統、自然科学等の分野から講師をお招きし、講演を行っています。

令和4年度の宮崎県文化講座を下記のとおり開催しました。内容は後日『宮崎県文化講座研究紀要第49輯』(令和4年度)としてホームページにアップされる予定です。

- 第1回(7/16) 「宮崎 酒と魚の文化地理」(講師：宮崎大学教育学部・中村周作教授)
- 第2回(8/20) 「好きな場所で、好きなことをして生きていく」(講師：ソルクリエイターズ代表・坂口潤成氏)
- 第3回(9/10) 「『短歌県みやざき』を目指すために！」(講師：宮崎大学教育学部・中村佳文教授)

頭イキイキ！心ワクワク！

声に出して言葉を楽しもう会

9月30日に、第1回『声に出して言葉を楽しもう会』を開催しました。この会では、声に出して文字を読むことで脳の活性化を図り、心と体をリフレッシュさせることを目的としています。また、一緒に声を合わせて音読することで参加者同士の交流を深めることも目指しています。

会の始めでは、リラックスして活動することができるように、体全体や口元を動かす運動や脳を活性化させる楽しいトレーニングを行いました。参加者からは次第に笑顔が見られ、会場全体が和やかな雰囲気に包まれていきました。音読の場面では、職員の後に続いて一緒に音読したり、グループに分かれて音読したりするなど様々なバリエーションを設定しました。生き生きと声に出して活動する参加者の姿から、職員も元気をいただくことができました。

参加者からは「久しぶりに大きな声を出して楽しかった」「声に出してスッキリした」「今後も定期的に開催してほしい」といった満足感いっぱいの声が多く聞かれました。すがすがしい表情で会場を後にする参加者の姿がとても印象的でした。



覗いてみよう！ 県立図書館

図書館スタッフの仕事をご紹介します

当館で来館者が利用する本には1冊ごとに資料コードが付いており、館内の蔵書検索機（OPAC）で資料を探す時に使用する情報、所蔵情報や書誌情報を管理しています。当館で購入した本や寄贈を受けた本の所蔵情報や書誌情報のデータの入力作業は、主に資料管理担当が行っています。

所蔵情報には、「絵本」「郷土資料」などの資料区分や、「郷土」「書庫1」などの資料の配架場所、請求記号といったその資料の所在情報が登録されており、同じ本であっても配架場所等が異なれば登録情報も違ってきます。書誌情報には、本のタイトルや著者名、出版社、大きさ、NDC番号といった図書館の内容や体裁に関する情報が登録されており、データは目録規則や分類表に基づいて作成しています。書誌情報は所蔵情報と違い、配架場所等が異なっても同じ内容になります。

所蔵情報や書誌情報は利用者が本を探すための重要な情報であるため、内容等の読み取りや、入力作業を正確かつ手早くするよう心がけて一刻も早く書棚に並べ、手に取ってもらえるように、日々奮闘しています。

所蔵情報

資料区分

「絵本」「郷土資料」などの分類

配架場所

閲覧室や児童室、書庫など、本が置かれている場所

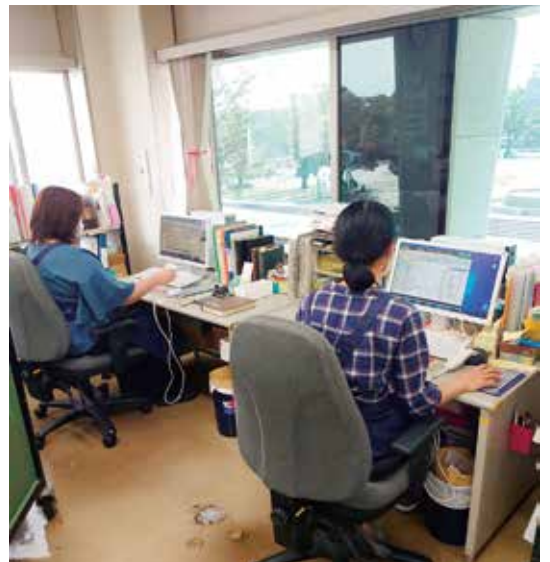
書誌情報

本の内容

本のあらすじや、本を検索する時に必要なキーワードなど

体裁

本の大きさ、ページ数など



入力作業をしている資料管理担当職員

これらの内容を入力し、
バーコードとリンクさせて初めて
宮崎県立図書館の本に！

図書館のお知らせ

閲覧室出入口ゲートが新しくなりました

閲覧室の出入口には、図書館資料が貸出手続きを経ずに持ち出されるのを防ぐための装置（BDS：ブックディテクションシステム）を設置しておりますが、この度、新型コロナウイルス感染症対策として、入館者が手で押すこれまでの接触型から非接触型のものへ更新いたしました。利用者の皆様にとって、より安心して図書館を御利用いただけるようになりました。



Instagram 始めました

宮崎県立図書館公式 Instagram を開設しました。

イベント情報や、役に立つ情報などを発信していきます。Facebook・Instagram とともによろしくお願ひします。



特別整理期間のお知らせ

蔵書点検を行うため、特別整理期間を定め、連続した休館日を設けています。今年度は以下の日程で行います。皆様にはご不便おかけいたしますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

期間 令和5年1月30日(月)～2月9日(木) 11日間



宮崎県立図書館
創立 120 周年



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。宮崎県

ご利用案内

開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00
休館日 ■毎週月曜日（祝日の場合翌日）
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：1/30～2/10

編集・発行

●宮崎県立図書館
所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911（総務・企画課）
FAX ■0985-29-2491（総務・企画課）
HPアドレス ■<https://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>



ホームページ